



第1回

長崎から始まる
日本の橋の技術

長崎大学名誉教授 岡林 隆敏

長崎県には、全国でも特異な土木構造物があります。後世に残したい長崎県内の歴史的な土木構造物を「土木遺産」として紹介します。最初は『橋』です。

橋は材料によって4種類に分類されます。古来より自然にある材料を使って、木橋や石橋が造られました。近代になって、鉄橋やコンクリート橋が造られるようになりました。石橋（石造アーチ橋）、鉄橋さらにコンクリート橋（鉄筋コンクリート橋）が日本で最初に架けられたのが長崎なのです。



■眼鏡橋(寛永11年(1634))

日本で最初の石橋が「眼鏡橋」です。この橋は興福寺の2代住職である唐僧の黙子如定（もくすによじょう）により、寛永11年（1634）に中島川に架けられました。日本最古の石橋として、国の重要文化財に指定されています。



■初代鉄橋(鉄橋)(慶応4年(1868)8月)

日本で最初の鉄橋は、長崎市の浜市アーケードの入り口にあった「鉄橋（くろがねばし）」です。本木昌造が頭取をしていた長崎製鉄所において、ドイツ人F.L.M.ボーゲル（Bögel）により設計されたもので、慶応4年（1868）8月1日（慶応4年9月8日より明治元年）に完成しました。当時の橋の様子が明治後期の絵葉書に残されています。ちなみに、2番目の鉄橋は、英国人R.H.ブルントン（Brunton）によって設計・施工され明治2年（1869）11月に完成した横浜居留地の「吉田橋」です。現在の「鉄橋（くろがねばし）」は、平成2年（1990）に架け替えられた3代目の鉄筋コンクリートの橋です。



■現在の鉄橋

日本で最初の鉄筋コンクリート橋は、中島川の上流の「本河内低部ダム放水路橋梁」です。この橋は明治36年（1903）3月に完成しました。設計・監督したのは、日本で最初のダム式水道施設である「本河内高部水道施設」を造った、吉村長策（明治18年（1885）工部大学校助教授、海軍省建築局長）です。最近まで、日本で最初の鉄筋コンクリート橋は、明治36年（1903）7月に完成した、田辺朔郎（たなべさくろう）（東京帝国大学・京都帝国大学教授）設計・監督による「琵琶湖疎水日ノ岡11号橋」とされていましたが、この長崎の「放水路橋梁」が古いことが分かっています。

土木構造物を代表する『橋』の原点が、日本における「土木遺産」として長崎に残されているのです。

土木構造物を代表する『橋』の原点が、日本における「土木遺産」として長崎に残されているのです。



■本河内低部ダム放水路橋(明治36年(1903)3月)